



きらめき
マイタウン

よし とみ まち

吉富町

人から人へ。
歴史と文化を
未来へとつなぐ
伝統と人情のまち



八幡古表神社 (国指定重要有形民族文化財)

黒牛にまたがる神功皇后の御神像など、複数の国指定重要文化財を所蔵。4年に一度奉納される「細男舞・神相撲」のほか、神様の衣装を土用干しする「乾衣祭」が有名で、全国各地から多くの人々が訪れる



鉄道撮影スポット

写真は吉富町役場近くの山国川土手からのもので、他にも鉄道を堪能できるスポットが多数。のどかな田園やレトロなレンガ造りの橋と列車のコラボレーションなど、見どころがいっぱい



JR吉富駅前

平成25年に整備を行い、町の玄関口としてふさわしい駅前に。町のボランティア団体「よしとみレディース」によって花壇には季節の花々が植えられ、人々の目を楽しませている



吉富漁港

毎年4、5月に北側の干潟で潮干狩りを開催。また、港内にある吉富漁港総合グラウンドは、多目的運動広場として各種のスポーツが楽しめる



天仲寺公園

中津藩主・小笠原長次公の墳墓など、由緒ある史跡が多く残る公園。春の桜や森林浴が楽しめる人気があり、山頂の展望台からは隣県・大分の中津城を望むことができる



JA築東ふれあい市

吉富町をはじめ、近隣市町で生産された安くて新鮮な野菜や魚介類が並ぶ直売所。手作り豆腐などの加工品も人気。花の売り出しなど、時期ごとにイベントも開催されている



鈴熊山公園

「福岡県森林浴100選」にも選ばれたヒーリングスポット。山頂には国指定重要文化財である「薬師如来坐像」を本尊とする鈴熊寺がある



町が行っている「女子集客のまちづくり」プロジェクトの一環として、昨年からJR吉富駅前「よしとみガール de マルシェ」を定期的開催しています。

かわいい雑貨やおいしいパンなど、すてきなお店が勢ぞろい。女性だけでなく、小さな子どもから年配の方まで、老若男女問わず多くの方が訪れ、買い物を楽しんでいます。

次回 ▶ 7月15日(土)開催

問い合わせ

吉富町役場
築上郡吉富町広津226-1
TEL 0979-24-1122(代表)
ファクス 0979-24-3219
<https://www.town.yoshitomi.lg.jp>

自然・文化・人が輝き続けるまち

福岡県の東端に位置する吉富町は、山国川の清流と美しい周防灘に面した自然豊かな町。冬でも暖かく温暖な気候が特徴です。

「神楽」や「乾衣祭」など、歴史と文化が脈々と受け継がれる伝統の町でもあり、特に、4年に一度、8月に行われる神事「細男舞・神相撲」は、神様が相撲を取る「こと」で有名です。

面積が九州の自治体で最も小さな吉富町。ここでは、地域で守り、育んできた自然や伝統文化、人々のつながりを大切に、「小さくとも輝くまちづくり」が進められています。

ご当地キャラ紹介

かみんぐん
「神相撲」で一番強い神様・住吉大神がモチーフ。「神」と「民」をつなぐキャラクター



佐井川橋

大正時代に建設された当時としては珍しい鉄筋コンクリート製の橋。現在まで大規模な改修もなく利用されており、平成28年11月には「土木学会選奨土木遺産」にも登録された。大正ロマンの面影を残しながら、今も人々の往來を見守っている



チャレンジショップ

「女子集客のまちづくり」プロジェクトの一環として、最長3年間、安価な家賃で店を開くことができる事業を展開。現在は駅前に3店舗が営業中



英会話ふれあい事業

中学校就学前までの子どもたちを対象として、日常的に英語に親しむ機会を提供。外国人講師によるレッスンで、日常会話の習得を目指している



美だいこん

町のブランド野菜の一つである赤大根で、ポリフェノールの一種・アントシアニンが豊富。まるで柿のような甘みの特徴



土屋神楽(左)/吉富神楽(右)

吉富町を含む京築地域は、古くから神楽が盛ん。町では、その起源が1787(天明7)年と伝えられる土屋神楽と、神楽好きの有志により平成11年につくられた吉富神楽が伝承されている



pick up ピックアップ

読み聞かせ会

まほうのかばん・とんからりん文庫

本を知ってもらい、
本を好きになってもらう

今でこそ全国各地に存在する読み聞かせ団体ですが、実は吉富町はその先駆的存在。主に吉富小学校で読み聞かせを行う「まほうのかばん」が発足したのは、読み聞かせがブームになるずっと前の平成7年です。「PTA役員が集まって、子どもたちのためにもっとできることはないかと始めたのがきっかけ。当時はまだ受け入れ態勢がなく、小学校にも自分たちから『やらせてください』とお願いに行っていました」と代表の向野美和子さんは話します。

また、元小学校校長の土屋富子さんが主宰する「とんからりん文庫」も、読み聞かせ団体の一つ。「読み聞かせで子育てをもっと楽しんでほしい」との願いを込めて、主に乳幼児対象のお話会や読書啓発活動を行っています。



1/「まほうのかばん」は、お昼休みの「お話会」や朝の読書の時間に読み聞かせを行っている 2/「とんからりん文庫」の発足は、代表の土屋さんが自宅に私設図書館を造ったのがきっかけ 3/「まほうのかばん」代表の向野美和子さん(後列・左から2番目)と「とんからりん文庫」代表の土屋富子さん(前列・右)と各メンバーの皆さん

1
3 | 2

細男舞・神相撲保存会

魅せて、伝えて、
“神様の相撲”を守り続けたい

吉富町を代表する神社である八幡古表神社で4年に一度(次は2020年)開催される神事「細男舞・神相撲」を執り行い、次代へと伝えていく。それが「細男舞・神相撲保存会」の大切な役割です。昭和47年にスタートしたこの会は、高校生から60代まで、吉富町とその歴史・伝統を愛する約15人のメンバーで活動しています。

活動内容は、八幡古表神社のお祭りの手伝い全般ですが、「細男舞・神相撲」が開催される年は、ゴールデンウィークが終わった頃から8月の本番に向けて練習を重ねるので、とても忙しいのだとか。木でできた神様を操って舞や相撲を表現することはとても難しく、練習も大変ですが、「ご覧になる方はもちろん、何よりも神様に喜んでいただけたら」と会長の高瀬正直さん。最近では後継者が不足しており、「ぜひ若い人たちが入会してくれたら」と願っています。



1/見ている人に相撲をしていることが伝わるよう、流れや一つ一つの動きに注意しているのだとか 2/毎年8月6日・7日には神様の着物を土用干しする「乾衣祭」を開催 3/小学生の頃からこの保存会で活動している会長の高瀬正直さん

1
3 | 2

キッズクラブ

さまざまな体験を通して心豊かな
子どもたちを育てていきたい

平成14年に発足した「キッズクラブ」は、子どもたちがいろいろなことに興味や関心を持つための「学びや気づきのきっかけの場」や「居場所づくり」を行う町のボランティア団体。クッキングやプラスバンド、バドミントン、神楽、ダンスなど年間を通してさまざまな体験教室を開催しています。

会長の和才信子さんは「最近では一人っ子や両親が共働きで留守番をしている子どもが多い。そんな子どもや親を支えたい。地域のみんなで子育てができれば」と思いを語ります。夏には1泊2日のサマー合宿があるほか、毎年3月には各教室の発表などを行う「キッズフェスティバル in 吉富」も開催。一年間の集大成を披露する子どもたちを町中で盛り上げ、見守ります。



1/クッキング教室では、チキンライスやオムレツ、餃子、ホットケーキなどをみんなで楽しみながら作る 2/陶芸や木工、合気道、茶道、手芸などいろいろな体験ができる「チャレンジ☆コース」も人気 3/「町の子どもたちがどんなふう^{まほうのかばん}に育っていくのが楽しみ」と話す会長の和才信子さん(左)と、陶芸教室担当の佐田秀俊さん(右)

1
3 | 2

よしとみレディース

生き生きと輝く町の女性たちが
吉富をもっと豊かに

吉富町の主婦たちが平成8年に結成した「よしとみレディース」は、女性の地位向上を目的に、ボランティア活動や生涯学習を実践する団体。現在62人のメンバーが、JR吉富駅前の花壇活動や健康をテーマにした講演会の開催、老人ホームの慰問などを行っています。

「活動していると町の人ともつながっていく。それがとてもうれしいですね。家の中にいるだけでなく積極的に出ることによって、メンバーにとっては出会い、ふれあいの場になります」と会長の土屋克子さん。仲間と楽しみながら町に貢献できる活動を行っています。

平成26年にはJR吉富駅前の花壇活動が認められ、国土交通大臣表彰も受賞。思いがけないご褒美は、メンバー全員の励みとなりました。



1/吉富駅前の花壇活動は、駅が開された2年後の平成9年からずっと続けている 2/新聞紙で作ったエコバッグ。お正月飾りやクリスマスリースなど、いろいろなクラフトも楽しんでいる 3/「月に一度の活動は、仲間と会える楽しいひとときでもあります」と話す会長の土屋克子さん(右)と副会長の山本タツ子さん(左)

1
3 | 2